

2 0 1 6 年 4 月 1 1 日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 12-5 小伝馬町 Y S ビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

嗜好品を含む飲料 7 2 品目の市場を調査

2 0 1 5 年見込 (2 0 1 4 年比)

レギュラーコーヒー 3, 6 1 9 億円 (1 5 . 3 % 増)

. . . “ サードウェーブ ” 到来 ! 本格志向の高まりから好調

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済 (東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811) は、2 0 1 5 年 8 月より 6 回に分けて 2 7 カテゴリー 4 1 0 品目の加工食品国内市場について調査を行っている。その第 6 回目の結果を報告書「 [2 0 1 6 年 食品マーケティング便覧 No. 6](#) 」にまとめた。

この報告書では果実飲料 8 品目、炭酸飲料 8 品目、乳性飲料 1 0 品目、嗜好飲料 1 2 品目、健康飲料 1 0 品目、その他飲料 6 品目、嗜好品 1 8 品目計 7 2 品目の市場を調査・分析した。なお次回報告書では、今までの調査結果を基に加工食品国内市場を総括分析する。

< 注目市場 >

レギュラーコーヒー、簡易抽出型コーヒー【嗜好品】

	2 0 1 4 年	2 0 1 3 年比	2 0 1 5 年見込	2 0 1 4 年比
レギュラーコーヒー	3, 1 3 9 億円	1 0 2 . 9 %	3, 6 1 9 億円	1 1 5 . 3 %
簡易抽出型コーヒー	3 8 0 億円	1 0 6 . 4 %	4 1 2 億円	1 0 8 . 4 %

簡易抽出型コーヒーはレギュラーコーヒーの内数。

レギュラーコーヒーは、2 0 1 4 年は秋冬に原料豆の価格高騰による値上げが業務用・市販用共に行われた。しかし、コーヒーショップではシングルオリジンなど素材に拘った豆を使い、一杯ずつ手で淹れるコーヒーの人气が高まる“ サードウェーブ ” が到来し、家庭でもレギュラーコーヒーを飲む機会が創出され、業務用・市販用共に市場が拡大した。

2 0 1 5 年は前年の値上げの影響で市場が大幅に拡大する見込みである。業務用は C V S カウンターコーヒー向けの伸びが鈍化しているが、市販用は消費者の本格志向の高まりからレギュラーコーヒーの需要が引き続き増加し、中でも簡易抽出型コーヒーが伸びている。

簡易抽出型コーヒーは、消費者の本格志向の高まりを背景にインスタントコーヒーから需要がシフトしており、2 0 1 5 年は引き続き市場拡大が見込まれる。簡易抽出型コーヒーは有機栽培されたコーヒー豆や産地別のコーヒー豆のアソート、カフェインレスといった付加価値商品が増加している。特にカフェインレス商品は健康志向から女性を中心に人气が高まっており、以前は通販やベビー用品店といった限られたチャネルでの販売であったが、量販店での取り扱いが増加している。

緑茶、緑茶ティーバッグ【嗜好品】

	2 0 1 4 年	2 0 1 3 年比	2 0 1 5 年見込	2 0 1 4 年比
緑茶	2, 2 1 0 億円	9 9 . 0 %	2, 1 9 0 億円	9 9 . 1 %
緑茶ティーバッグ	2 2 2 億円	1 0 4 . 2 %	2 2 8 億円	1 0 2 . 7 %

緑茶ティーバッグは緑茶の内数。

緑茶は、2 0 1 4 年はティーバッグや粉末タイプといった簡便な商品を中心に需要が高まり、参入各社の商品投入も相次いだ。リーフはニーズの減少が続いていることから市場は縮小したが、一方で近年メディアや口コミによ

って茶カテキンの健康促進効果への期待が消費者に浸透しつつあることで掛川茶をはじめとした深蒸し茶が伸びるなど、高価格帯商品が好調なメーカーも見られた。

2015年は全形態(リーフ、ティーバッグ、粉末)を通してブランドや品質などを訴求する商品が伸びている。今後もこうした付加価値型商品の拡大が期待される。また、使用量が僅かであることから市場への寄与は小さいものの、製菓、飲料など加工向け抹茶の需要も伸びている。

緑茶ティーバッグは、2014年はPB商品の需要増に加え、伊藤園が積極的な販促活動を行ったことからプレミアムタイプを中心にNB商品の存在感も一層高まり、市場は前年ほどの伸長には至らないものの続伸した。2015年は前年に引き続きPB、NBを問わず大容量タイプが好調で、高価格帯商品も伸びており、市場は安定した拡大が見込まれる。

<調査対象>

果実飲料	100%果汁飲料 果汁飲料 低果汁入清涼飲料	果肉飲料 果粒含有果実飲料 トマト飲料	野菜飲料 野菜入混合果汁飲料
炭酸飲料	コーラフレーバー飲料 透明炭酸飲料 シャンパン風炭酸飲料	果実着色炭酸飲料 ジンジャーエール 乳類入炭酸飲料	果汁入炭酸飲料 無糖炭酸飲料
乳性飲料	飲用牛乳 低温殺菌牛乳 乳飲料 ローファット飲料	乳製品乳酸菌飲料 乳酸菌飲料 ドリンクヨーグルト 殺菌乳製品乳酸菌飲料(コンク)	乳類入清涼飲料 殺菌乳製品乳酸菌飲料(ストレート)
嗜好飲料	缶コーヒー リキッドコーヒー 紅茶(リキッド) ウーロン茶(リキッド)	日本茶(リキッド) 麦茶(リキッド) ブレンドティ その他ティードリンク	ゼリー飲料 ココアドリンク 甘酒(ストレート) 缶入しるこ
健康飲料	食系ドリンク 薬系ドリンク(医薬部外品) 健康サポート飲料 機能性清涼飲料	スポーツドリンク 粉末機能性清涼飲料・スポーツドリンク 豆乳類 ビネガードリンク(コンク・市販用)	ビネガードリンク(ストレート) 麦芽ドリンク
その他飲料	国産ミネラルウォーター類 輸入ミネラルウォーター類	サワードリンク トニックウォーター	希釈飲料 乳幼児向け飲料
嗜好品	レギュラーコーヒー 簡易抽出型コーヒー ポーションコーヒー インスタントコーヒー スティックタイプコーヒー インスタントティー	ココア スティックタイププレミックス飲料 紅茶(ティーバッグ・リーフ) 緑茶 緑茶ティーバッグ 粉末緑茶・市販用	麦茶 その他茶 健康茶・市販用 パック甘酒 粉末飲料 青汁

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体などへのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>

2015年12月～2016年2月

資料タイトル：「[2016年 食品マーケティング便覧 No.6](#)」

体 裁：A4判 365頁

価 格：書籍版 100,000円+税

PDF/データ版 110,000円+税

書籍版・PDF/データ版セット 130,000円+税

書籍版・ネットワークパッケージ版セット 200,000円+税

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル

TEL：03-3664-5811(代) FAX：03-3661-0165

<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

[e-mail: info@fuji-keizai.co.jp](mailto:info@fuji-keizai.co.jp)

調 査・編 集：東京マーケティング本部 第一部

TEL：03-3664-5821

FAX：03-3661-9514

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>